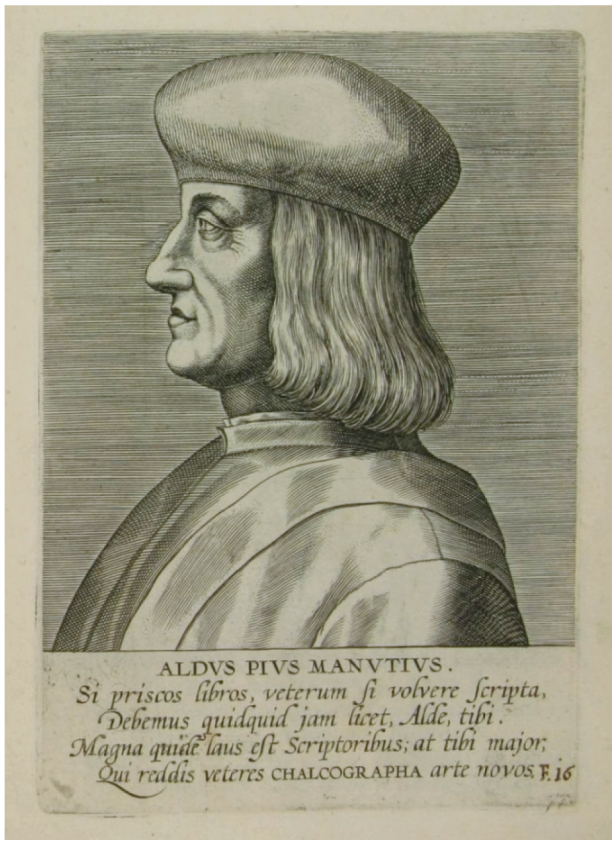
アルド・マヌーツィオの印刷出版活動―アルド 500 年忌に寄せて―

雪嶋　宏一（教育・総合科学学術院　教授）

今年 2015 年は、ヴェネツィアで活躍した印刷出版業者アルド・マヌーツィオ（Manuzio, Aldo, ca.1450–1515）が亡くなってちょうど 500 年となる。彼は印刷出版活動によってルネサンス時代の学芸に多大な影響を与え、文芸復興を印刷の面から推進した。そのため、欧米各地で没後 500 年の記念行事が開催されている。

アルド・マヌーツィオはローマの南の小村バッシアーノで生まれ、1460 年代末からローマのサピエンツァ（ローマ大学）でラテン語と古典学を学んだ。その後、友人である哲学者ピーコ・デッラ・ミランドラ（1463–94）と共にフェッラーラでギリシア語と古典学を修得した。そして、ピーコ・デッラ・ミランドラの仲介でモデナ郊外カルピの領主ピオ家の 2 人の息子のラテン語とギリシア語の家庭教師となり、学者の道を歩んだ。



【図 1】アルド・マヌーツィオの肖像。
16 世紀ダルマティア出身の画家マルティーノ・ロタによる銅版画を同時代のオランダの画家ガレが模写したもの。Galle, Philippe, Italorum doctrina illustrim imagines, Antuerpiae: Officina Plantiniana, 1600, pl. 17.（請求記号：文庫 08 B0206）

アルドはギリシア語を教える際に優れた校訂のギリシア語文献の不足に直面した経験から、自ら優れたギリシア語書を印刷出版しようと決心して 1490 年頃ヴェネツィアへ赴いた。アルドはヴェネツィアで貴族ピエルフランチェスコ・バルバリゴ（d.1499）と印刷業者アンドレア・トッレザーニ（1451–1529）の出資を得て 1494 年に印刷所を設立した。彼の最初の印刷物は 1495 年早々に完成したコンスタンティノス・ラスカリス『ギリシア語文法』である。以降、1515 年に亡くなるまでに彼はギリシア・ローマの古典を中心にして文芸復興を象徴するような学術書 135 版以上を印刷刊行した。

アルドによって初めて印刷されたギリシア語書は 32 版にも及ぶ。その中にはアリストテレス、アリストファネス、トゥキュディデス、ヘロドトス、ソフォクレス、プラトン等わが国でもよく知られた古代ギリシアの著述家の著作集が含まれている。同時にアルドはギリシア語文法書とギリシア語辞典を刊行してギリシア語学習の環境を整えた。

ギリシア語の普及活動の一環として、アルドは 1500 年頃にアルド、フォルテグエッリ（1466–1515）とクレタ島出身のヨアンネスの 3 人で学芸サークル「ネアカデミア（Neacademia、新アカデミー）」を創設し、会員にギリシア語会話を義務付けた。ネアカデミア会員に名を連ねたのは、イタリア人エニャーツィオ（1478–1553）、パオロ・カナル（1481–1510）、ピエトロ・ベンボ（1470–1547）、ギリシア人マルコス・ムスロス（ca.1470–1517）、デメトリオス・ドゥカス（ca.1480–ca.1527）、ヤノス・ラスカリス（ca.1445–1535）、イギリス人トマス・リナカー（ca.1460–1524）等の当代一流の学者たちであった。

また、アルドは古代ローマ古典、イタリア古典、同時代の人文主義者の著作の印刷も行った。特に、1501 年からウェルギリウス（79–19 BC）、ホラティウス（65–8 BC）、キケロ（106–43 BC）、オウィディウス（43 BC–AD 17）等の古典をハンディーな八折判で次々と刊行したことで大変な好評を博した。この八折判の古典シリーズには、活字職人グリッフォ（d.1517）が制作したイタリック体活字が採用された。

1502 年からは自身の印刷物に「錨とイルカ」の商標を使用した。この「錨とイルカ」は印刷文化史上最も有名な商標である。アルドはリヨンで相次ぐ海賊版への対策として、この商標の重要性をアピールして海賊版業者に警告する文書を印刷し、自社の印刷物のブランド化を推進した。

アルドは 1505 年にトッレザーニの娘マリア（1485–1536）と結婚して、印刷所はトッレザーニとの共同経営になった。しかし、1506 年以降アルドは様々な困難に直面して仕事に専念できる時間は限られた。このような時期にエラスムス（1466–1536）が印刷所を訪れた。エラスムスは印刷所に長逗留して出世作『格言集』改訂増補版を刊行した。その中でエラスムスはアルドの商標の由来とその意味を記した。「ゆっくりと急げ Festina lente」と。

アルドは晩年には落ち着いた日々を過ごし、ムスロスの校訂によるプラトン、ピンダロス、ヘシュキオス、ギリシア語事典『スーダ』などを刊行して、アルド自身が計画したギリシア語書の印刷出版を進めたが、1515 年 2 月 6 日に志半ばにして亡くなった。

アルドの死後、印刷所はアンドレア・トッレザーニによって後継され、アルドの計画に沿って出版が進められたが、彼の死後遺産相続の争いでしばらく中断した。1534 年にアルドの三男パオロ・マヌーツィオ（1512–74）が印刷所を引き継いで再開した。

1574 年にパオロが亡くなると、長男アルド 2 世（1547–97）がさらに後継して 100 年余に及ぶアルド印刷所を支えたのである。

【図 2】「錨とイルカ」の商標。
ここにはギリシア語で ἀεὶ | σπεῦδε | βραδέως（いつも｜急げ｜ゆっくりと）とペンで書き込まれている。
Sophocles, Tragoediae septem cum commentatiis, Venetiis：In Aldi Romani academia, 1502（請求記号：FB 09649）

アルド・マヌーツィオの印刷出版活動はルネサンスにおける古典文献の復興に極めて重要な役割を果たしたばかりでなく、最初の学術出版社として後世の出版業界に大変大きな影響を与えた。また、彼が採用した八折判シリーズは現代の文庫本や新書本の先駆けとなり、読書する場所を限定することなく携帯してどこででも本を繙くことができる近代的な読書の形を作り出したと言えよう。

参考文献

1）Lowry, Martin, The world of Aldus Manutius: business and scholarship in Renaissance Venice, Oxford: Basil Blackwell, 1979
2）印刷博物館学芸企画室編，ヴァチカン教皇庁図書館展 II：書物がひらくルネサンス．印刷博物館．2015
3）雪嶋宏一，わが国におけるアルド版の調査研究，早稲田大学図書館紀要．no54. 2007. p. 1–54
4）雪嶋宏一，アルド・マヌーツィオとルネサンス文芸復興．東京製本倶楽部．2014

図書館企画展「アルドの遺伝子　15 世紀の書物から現代ルリユールまで」

会期：2015 年 10 月 5 日（月）～ 2015 年 11 月 19 日（木）10:00 ～ 18:00
閉室：日曜日および 11 月 6 日（金）　ただし、10 月 18 日（日）は開室（10:00 ～ 17:00）
会場：早稲田大学総合学術情報センター 2 階展示室
主催：早稲田大学図書館・東京製本倶楽部